# 続・周南市小地域別人口構造に関する予備的分析

Sequel to Preliminary Analysis of Small Area Population Structure in Shunan City

河田正樹・安田悠太郎

## Ⅰ．はじめに

現在、地方都市では人口減少が加速度的に進んでいる。徳山大学のある周南市も例にもれず、2003 年 4 月の周南市誕生時は 16 万人弱であった人口が 2019 年 9 月末には 14 万 2 千人あまりと、約 1 割減少している。そのため地方自治体では、「地方創生」の名のもと、東京圏への人口の一極集中を是正し、地方の人口減少をくいとめるべく、さまざまな政策 [1] をおこなっている。

しかし、地方都市の人口変動を小地域別にみてみると、全地域で一様に減っているわけではなく、反対に増加している地域もあり、「地域内格差」の問題が存在しているといえよう。河田(2008)ではこの「地域内格差」をあきらかにすべく、2003 年 8 月末の 30～34 歳の人口と、2008 年 8 月末の 35～39 歳の人口を比較し、どのような変動がみて取れるかを考察した。

周南市全体の人口変動をみると、20 歳前後では人口が流出するのに対し、30 歳代では人口はあまり変化がないことがわかった [2]。しかし、小地域別でみると、30 歳代の人口も変動していることがわかる。これはよりよい住環境を求めて、周南市内で移転することが原因と考えられ、30 歳代の小地域人口変動をみることで、「ファミリー世代」の市内移転の状況がある程度わかると考えた。

本稿では、河田(2008)と同様の分析をおこない、2014 年 9 月末の 30～34 歳の人口と、2019 年 9 月末の 35～39 歳の人口を比較し、10 年以上経った現在でも前回と同様の傾向があるのか、それとも別の傾向があるのかを探っていく。

## Ⅱ．地区別の人口変動

### 1．周南市の地区分類

周南市市民課が公開している住民基本台帳データでは、地区を以下のように分類している[3]。本稿ではこの分類を用いて地区別の人口変動を分析していく。

・旧徳山市街地

周陽地区、遠石地区、岐山地区、関門地区、中央地区、今宿地区

・旧徳山周辺部

櫛浜地区、鼓南地区、久米地区、菊川地区、夜市地区、戸田地区、湯野地区、向道地区、長穂地区、須々万地区、中須地区、須金地区、大津島地区

・旧新南陽

富田地区、福川地区、和田地区

・旧熊毛

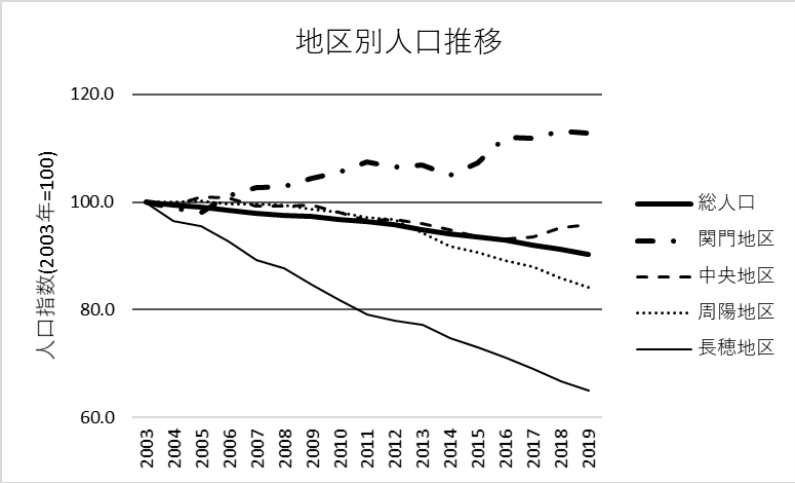
大字八代地区、大字清尾地区、大字樋口地区、大字原地区、大字呼坂地区、大字奥関屋地区、大字大河内地区、大字中村地区、大字安田地区、大字小松原地区、住居表示地区[4]

・旧鹿野

大字大潮地区、大字鹿野上地区、大字鹿野中地区、大字鹿野下地区、大字須万地区、大字金峰地区、大字巣山地区

## 2. 地区別人口変動

「30 歳代後半コーホート」[5] の変動に目を向ける前に、地区別の全年齢人口の推移をみてみる。各地区の 2003 年 9 月末の人口を 100 とする指数で表すと、周南市全体の人口は 2019 年 9 月末に 90.3 まで減少している。これを地区別でみると関門地区は 112.7 と人口が増加しているのに対し、中央地区は 95.8、周陽地区は 84.2 と減少している。この 2 地区は 2012 年ごろまでは、市全体の動きとほぼ同様の動きを示していたが、ここ数年で差が開いている。また、中山間地域である長穂地区は 64.9 と大幅に減少しており、中山間地域の厳しい現状を示している。




**第 1 図　地区別人口推移(2003-2019 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

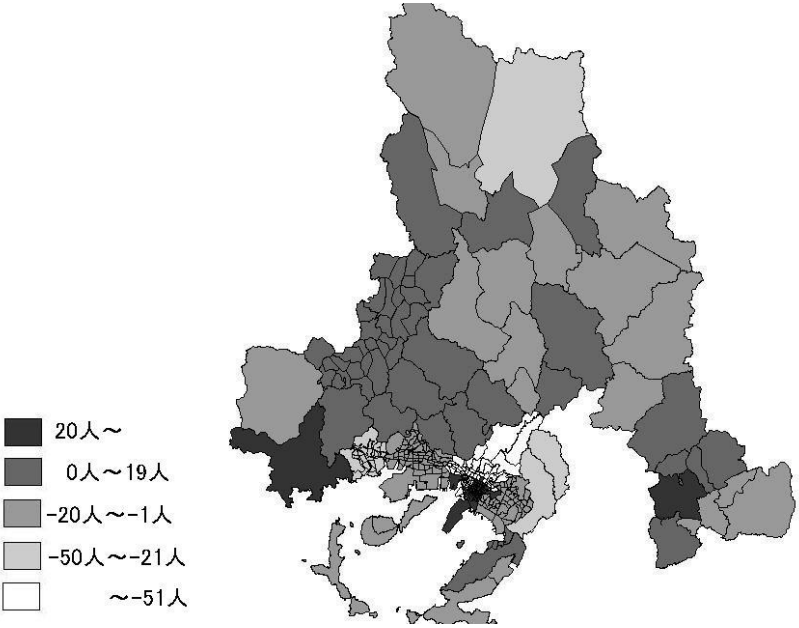
このような全年齢人口の減少は、周南市内での移転と、周南市外への移転があわさってなされるものである。人口の変化からこの 2 つを分離することは難しいが、「30 歳代後半コーホート」であれば、5 年間での人口減少はあまりみられないので、周南市内での移転の代理変数ととらえることができる。

そこでこのコーホートの増減を、2014 年 9 月末と 2019 年 9 月末で比較し、その増減が河田(2008)で取り上げた 2003 年 8 月末と 2008 年 8 月末との増減と、どのように異なっているかを比較してみる。

**第 1 表　「30 歳代後半コーホート」の増減数(地区別、2003-2008 年)**

| 増加数トップ5　（単位: 人） | | 減少数トップ5　（単位: 人） | |
|---|---|---|---|
| 関門地区 | 67 | 今宿地区 | -101 |
| 大字呼坂地区 | 61 | 岐山地区 | -95 |
| 中央地区 | 60 | 久米地区 | -42 |
| 戸田地区 | 38 | 福川地区 | -24 |
| 菊川地区 | 19 | 大字鹿野上地区 | -21 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



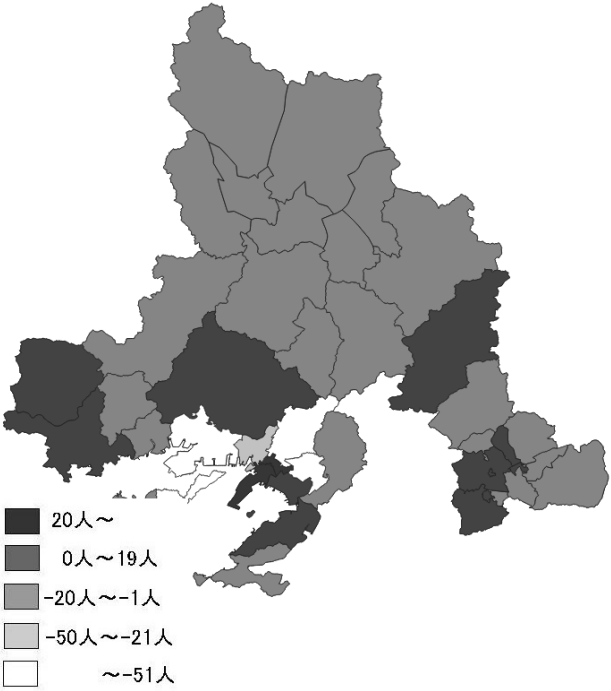

**第 2 図　「30 歳代後半コーホート」の増減数(地区別、2003-2008 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 2 表　「30 歳代後半コーホート」の増減数(地区別、2014-2019 年)**

| 増加数トップ5　（単位: 人） | | 減少数トップ5　（単位: 人） | |
|---|---|---|---|
| 関門地区 | 119 | 周陽地区 | -128 |
| 中央地区 | 35 | 富田地区 | -83 |
| 櫛浜地区 | 19 | 岐山地区 | -55 |
| 大字呼坂地区 | 15 | 今宿地区 | -25 |
| 菊川地区 | 11 | 久米地区 | -19 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



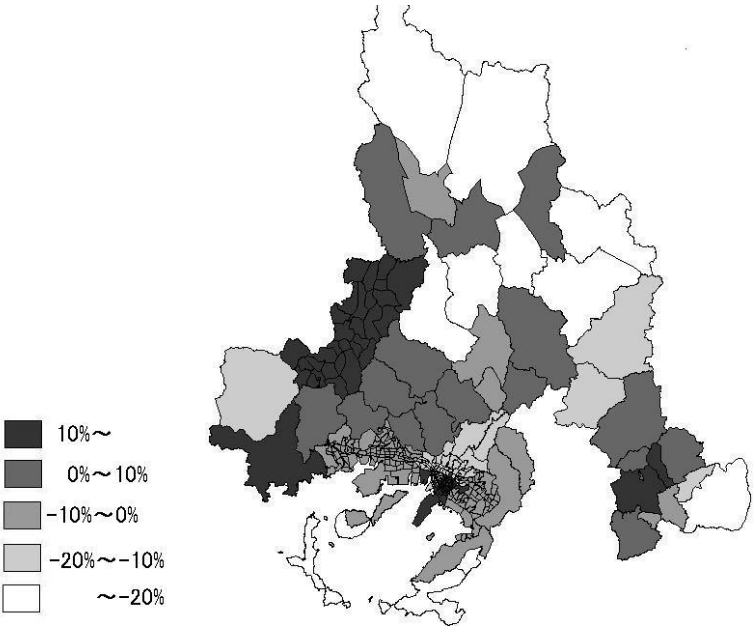

**第 3 図　「30 歳代後半コーホート」の増減数(地区別、2014-2019 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 3 表　「30 歳代後半コーホート」の増減率(地区別、2003-2008 年)**

| 増加率トップ5　(単位: %) | | 減少率トップ5　(単位: %) | |
|---|---|---|---|
| 大字原地区 | 41.2 | 大津島地区 | -50.0 |
| 中央地区 | 22.1 | 大字大潮地区 | -42.9 |
| 戸田地区 | 19.8 | 大字巣山地区 | -40.0 |
| 和田地区 | 16.9 | 須金地区 | -31.6 |
| 大字呼坂地区 | 16.8 | 向道地区 | -26.7 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



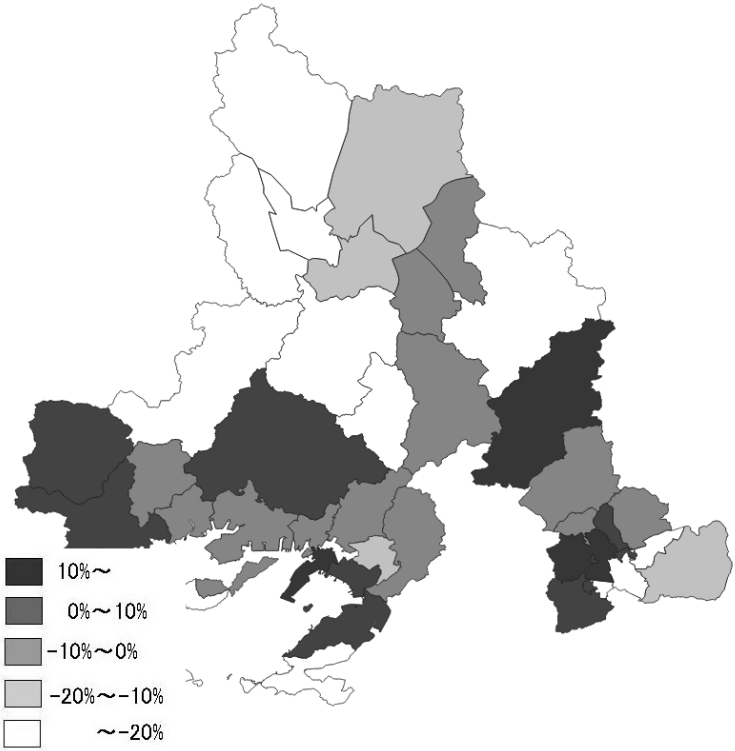

**第 4 図　「30 歳代後半コーホート」の増減率(地区別、2003-2008 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 4 表　「30 歳代後半コーホート」の増減率(地区別、2014-2019 年)**

| 増加率トップ5　(単位: %) | | 減少率トップ5　(単位: %) | |
|---|---|---|---|
| 関門地区 | 36.7 | 大字巣山地区 | -100.0 |
| 中央地区 | 15.2 | 大津島地区 | -42.9 |
| 中須地区 | 11.1 | 長穂地区 | -37.9 |
| 大字呼坂地区 | 10.1 | 向道地区 | -35.5 |
| 湯野地区 | 8.2 | 大字大潮地区 | -33.3 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**




**第 5 図　「30 歳代後半コーホート」の増減率(地区別、2014-2019 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

河田(2008)では、2003 年から 2008 年にかけての増減について、人口が増加しているところは、①中央地区、関門地区などの旧徳山中心部、②大字原地区、大字呼坂地区などの旧熊毛地域、③戸田地区、和田地区、菊川地区などの旧徳山西部・旧新南陽地域　などと考察した[6]。

2014 年から 2019 年にかけてもほぼ同様のことがいえるが、関門地区、中央地区以外は増加傾向も一段落した感じである。

これらから、「ファミリー世代」が求める住環境としては、中央地区、関門地区といった旧徳山中心部のマンションが多いことが推察される。一方で、一戸建てに住みたいという世帯は、旧熊毛地区や菊川地区、戸田地区など、旧徳山中心部からは若干離れるが、自動車移動を考えた際に、交通の便の良いところを選ぶのではなかろうか。

一方、人口が減少しているところは、2003 年から 2008 年にかけてと同様に①今宿地区、岐山地区、久米地区、福川地区などの徳山や新南陽の中心部から少し離れた地域、②大字鹿野上地区、須金地区などの北部地域や離島　などである。それに加えて、周陽地区や富田地区といった、かつては人口が集中していた地区においても減少傾向がみられる。

北部中山間地域や離島は、全体的に過疎化が進んでいる地域であり、対策はあまり簡単ではない。一方で、今宿地区、岐山地区、周陽地区、富田地区などは対策の立てようはあると考えられる。河田(2008)でも触れたとおり、このまま「ファミリー世代」が減ってしまえば、高齢化の問題が起き、大都市における「ニュータウンの高齢化」と同様の状況が起きる可能性がある。

## Ⅲ．小地域別の人口変動

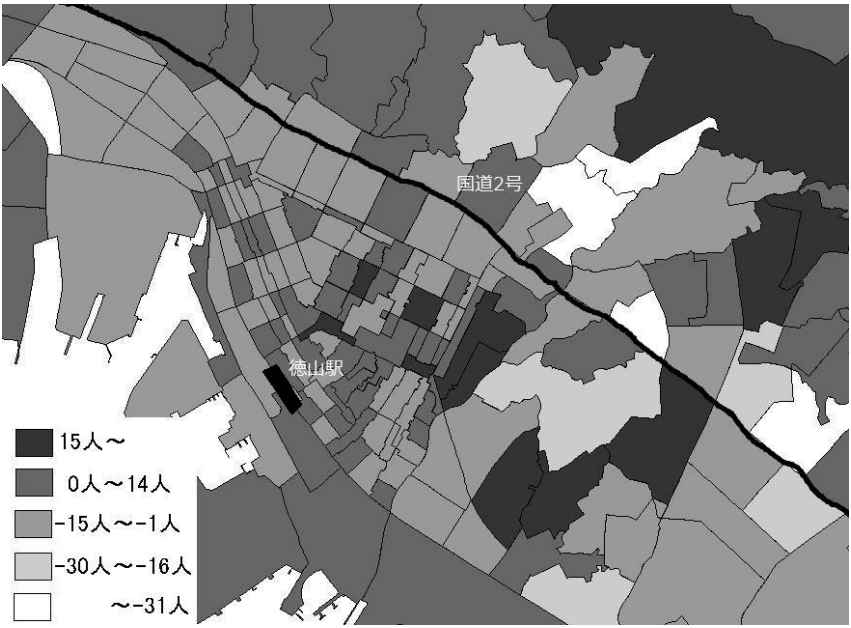
Ⅱ．では地区によって「30 歳代後半コーホート」の人口変動が大きく異なることをみてきたが、同じ地区内にもさまざまな小地域が存在する。大通りに面したところや、少し山のほうに入ったところなど、小地域はさまざまである。

そこで、河田(2008)と同様に、旧徳山市街地に分類される、周陽地区、遠石地区、岐山地区、関門地区、中央地区、今宿地区の 6 地区について、「30 歳代後半コーホート」の人口増減を、町丁字単位でみてみることにする。

**第 5 表　「30 歳代後半コーホート」の増減数(小地域別、2003-2008 年)**

| 増加数トップ10　（単位: 人） | | 減少数トップ10　（単位: 人） | |
|---|---|---|---|
| 秋月４丁目 | 91 | 扇町 | -49 |
| 桜馬場通２丁目 | 53 | 下一ノ井手 | -47 |
| 若草町 | 37 | 瀬戸見町 | -41 |
| 秋月３丁目 | 34 | 西一ノ井手 | -41 |
| 一番丁 | 34 | 江口３丁目 | -32 |
| 東山町 | 23 | 舞車町 | -27 |
| 上一ノ井手 | 22 | 周陽２丁目 | -23 |
| 大内町 | 21 | 遠石１丁目 | -21 |
| 上御弓丁 | 20 | 江の宮町 | -17 |
| 毛利町２丁目 | 19 | 中金剛山 | -17 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



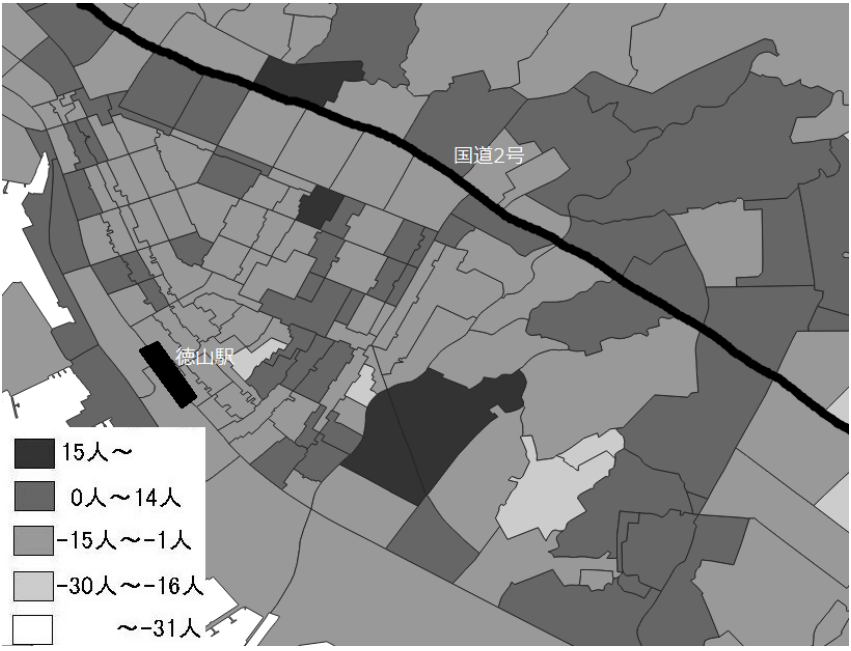

**第 6 図　「30 歳代後半コーホート」の増減数(小地域別、2003-2008 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 6 表　「30 歳代後半コーホート」の増減数(小地域別、2014-2019 年)**

| 増加数トップ9　(単位: 人) | | 減少数トップ10　(単位: 人) | |
|---|---|---|---|
| 慶万町 | 34 | 扇町 | -22 |
| 上御弓丁 | 27 | 周陽２丁目 | -21 |
| 河東町 | 23 | 江口３丁目 | -21 |
| 岐山通３丁目 | 19 | 瀬戸見町 | -20 |
| 東山町 | 16 | 西一ノ井手 | -18 |
| 糀町２丁目 | 13 | 若草町 | -17 |
| 弥生町２丁目 | 12 | 秋月４丁目 | -17 |
| 毛利町３丁目 | 11 | 城ヶ丘３丁目 | -14 |
| 秋月１丁目 | 10 | 桜木３丁目 | -14 |
| | | 中金剛山 | -13 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



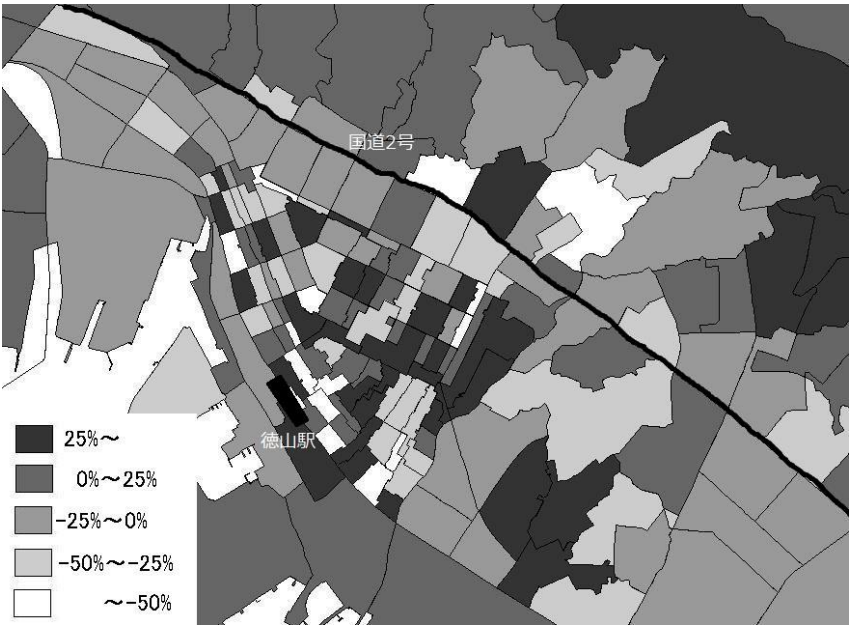

**第 7 図　「30 歳代後半コーホート」の増減数(小地域別、2014-2019 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 7 表　「30 歳代後半コーホート」の増減率(小地域別、2003-2008 年)**

| 増加率トップ10　(単位: %) | | 減少率トップ10　(単位: %) | |
|---|---|---|---|
| 桜馬場通２丁目 | 1766.7 | 二番町３丁目 | -100.0 |
| 代々木通１丁目 | 1500.0 | 銀座１丁目 | -100.0 |
| 上馬屋・下馬屋 | 200.0 | みなみ銀座２丁目 | -100.0 |
| 橋本町２丁目 | 175.0 | 御幸通２丁目 | -100.0 |
| 三番町１丁目 | 150.0 | 水上 | -100.0 |
| 弥生町２丁目 | 145.5 | 本町１丁目 | -75.0 |
| 平和通２丁目 | 133.3 | 戎町１丁目 | -75.0 |
| 秋月４丁目 | 101.1 | 今宿町１丁目 | -75.0 |
| 上御弓丁 | 100.0 | 二番町２丁目 | -71.4 |
| 一番丁 | 100.0 | 糀町２丁目 | -66.7 |

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**



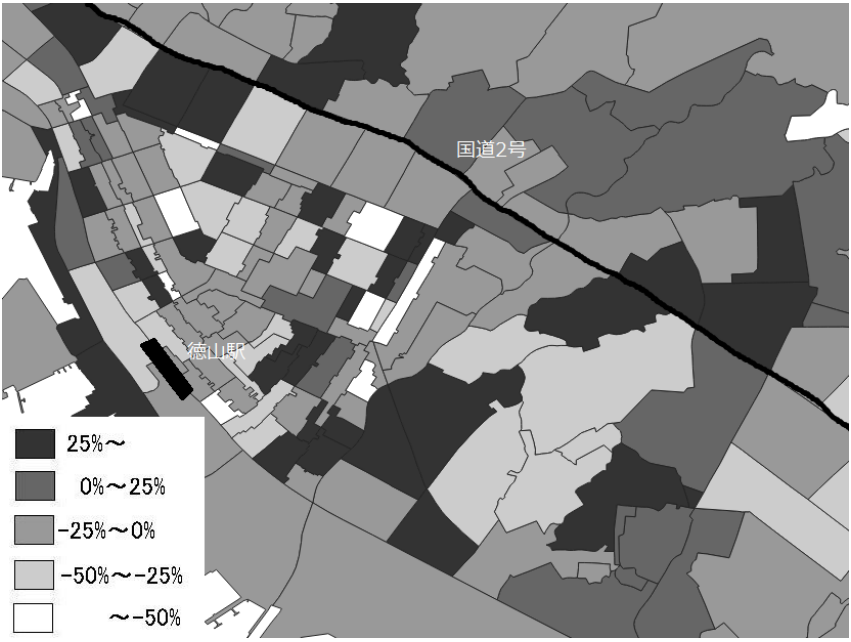

**第 8 図　「30 歳代後半コーホート」の増減率(小地域別、2003-2008 年)**

**（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）**

**第 8 表　「30 歳代後半コーホート」の増減率(小地域別、2014-2019 年)**

| 増加率トップ10　(単位: %) | | 減少率トップ9　(単位: %) | |
|---|---|---|---|
| 三番町３丁目 | 400.0 | 二番町３丁目 | -100.0 |
| 新町１丁目 | 300.0 | 戎町１丁目 | -100.0 |
| 野上町１丁目 | 200.0 | 弥生町１丁目 | -100.0 |
| 都町１丁目 | 200.0 | 新町２丁目 | -100.0 |
| 糀町２丁目 | 185.7 | 初音町３丁目 | -100.0 |
| 今住町 | 160.0 | 江口３丁目 | -72.4 |
| 上御弓丁 | 150.0 | 月丘町３丁目 | -66.7 |
| 相生町２丁目 | 150.0 | みなみ銀座２丁目 | -66.7 |
| 梅園町３丁目 | 128.6 | 高尾団地 | -66.7 |
| 西松原２丁目 | 125.0 | | |

（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）




**第 9 図　「30 歳代後半コーホート」の増減率(小地域別、2014-2019 年)**

（出典：『住民基本台帳人口』より筆者作成）

河田(2008)では、2003 年から 2008 年にかけて、国道 2 号線沿いの地域では「30 歳代後半コーホート」の人口が減少し、旧徳山中心部に近い地域や、少し離れた秋月などにおいて増加していると考察した[7]。

2014 年から 2019 年にかけての増減をみると、徳山駅徒歩 10 分程度の地域は、その後も人口は増加している。一方、扇町、周陽 2 丁目、瀬戸見町などの国道 2 号線沿いの地域では減少傾向が続いている。地区別でみた際に、周陽地区が大幅に減少しているが、特定の小地域で大幅に減少しているのではなく、周陽地区内の多くの小地域で減少傾向がみられる。この辺りは古い団地などが多く、古い団地に賃貸で居住していた「ファミリー世代」が、街なかのマンションを購入するという傾向が推察される。

また、2003 年から 2008 年にかけて 91 人増加した秋月 4 丁目は、2014 年から 2019 年にかけては減少となっている。2008 年ごろまでに開発されたこの地域にどのような変化が起こっているのかは、住宅の保有状況なども考慮しながら、さらなる分析が必要であろう。

## Ⅳ．おわりに

本稿では、2019 年 9 月末現在の「30 歳代後半コーホート」に焦点をあて、地区別や小地域別の人口変動を記述してみた。2003 年から 2008 年にかけての変動と同様の動きをしている地域が多いが、急激な人口減少が起きてしまっている地域もいくつかみられる。徳山市街地の「都心回帰」の動きは、いまなお継続的にあるとみられる。その一方で、かつては「住みやすい街」とされていた周辺部の団地では、高齢化がかなり進んでいるであろう。この点については、住宅の保有状況などの他のデータも用いながら、より詳細な分析をすべきである。今後の課題としたい。

周南市でもまちづくり政策は、地域コミュニティ単位でおこなわれることが多い。地域コミュニティの活性化を目的とした「夢プラン」が、中山間地域を中心に策定されている。旧徳山中心部では、今宿地区が他に先駆けて 2019 年に「つながる今宿夢プラン」を策定したが、その中では「子どもが減っている」

現状を直視し、そのうえで子どもの多いまちにするために、何をするべきかを計画している[8]。

このようなコミュニティ政策を計画する際に、本研究がその基礎資料として、何らかの示唆を与えることができれば幸いである。

**【謝辞】**

周南市市民課には、本稿で使用した住民基本台帳人口のデータ提供に際し、多大なご支援をいただきました。記して謝意を表します。

**【註】**

1)「まち・ひと・しごと創生総合戦略」など。

2) 河田(2008) p.75.

3)「市の人口」のページに「地区別年齢別人口」「地区別人口」のファイルがあり、そこでは 2021 年 4 月現在、この地区分類となっている。周南市コミュニティ推進連絡協議会の地区とは、若干異なる。

4) 熊毛地区の住居表示がなされた地区。2008 年の時点では新清光台地区、清光台町地区という名称がつけられていたが、その後住居表示がなされる地域が増え、それらをまとめたものとなっている。

5) 30 歳～34 歳の人たちが 5 年後に 35 歳～39 歳となることから、河田(2008)および本稿では、この世代を「30 歳代後半コーホート」と呼び、2 時点におけるこの年齢階級の人口を比較している。

6) 河田(2008) p.78.

7) 河田(2008) p.81.

8)「つながる今宿夢プラン」 p.2.

## 【参考資料】

・河田正樹（2008）「周南市小地域別人口構造に関する予備的分析」『徳山大学論叢』第 67 号, pp.71-81.
・今宿地区コミュニティ推進協議会「つながる今宿夢プラン」, しゅうなん地域づくり応援サイト,
http://shunan-chiikijoho.jp/wp-content/uploads/2017/02/195cc71467bbbcb8c41429fe30085e87.pdf（2021 年 4 月 19 日閲覧）.
・周南市コミュニティ推進連絡協議会「地域づくり情報」, しゅうなん地域づくり応援サイト, http://shunan-chiikijoho.jp/（2021 年 4 月 19 日閲覧）.
・周南市市民課「市の人口」, 周南市ウェブサイト,
http://www.city.shunan.lg.jp/soshiki/20/2604.html（2021 年 4 月 19 日閲覧）.

## 【データ出典】

・周南市「住民基本台帳人口」2003 年 4 月～2019 年 9 月.